

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



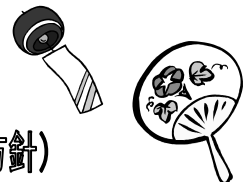
No. 37

2013年8月発行

残暑お見舞い申し上げます

遅くなりましたが、

2013年度事業計画 (事業方針)



平成25年度は、児童福祉法に基づく放課後等デイサービス（障害児通所支援事業）の開始に向けて準備を行い、年度後半からの事業開始を目指しています。放課後等デイサービスでは、当法人が実践を重ねてきた「子どもからはじめる個人将来計画」と「自立生活プログラム子ども版」の手法を活用し、障害児が地域の中でいろいろな人とかわりながら様々な活動をする中で、本人の思いを受けとめ、体験の幅を広げていくことができるような実践に取り組みます。“障害をもつ子どもの思いを聴きながら地域のつながりのなかで暮らす”という当法人の特色を活かし、子どもたちが自分らしい生き方を見つけていくことができるような活動ができればと考えています。

障害児者の自立に向けた支援事業においては、「子どもからはじめる個人将来計画」と「自立生活プログラム子ども版」を中心に、地域に密着した取り組みを実践していきます。また、これらの手法を社会福祉関係機関や障害者関係団体等に広めるための研修会を開催します。さらに、旭区自立支援協議会に参加することや、障害関係団体の評議委員や運営委員の役割を務めることによって、様々な団体や機関との連携の強化を図りながら障害者福祉の推進に努めます。

子育て支援事業においては、「あさひの輪」、「あさひ子育てネットワークきしゃぼっぽ」など、区内の子育て支援関係の定例会に参加して情報交換を行い、旭区内の子育て支援イベントや講座の開催などに協力していきます。

まちづくりの推進に関する企画及び研究事業においては、地域住民や公共機関と連携をして、旭区アクションプラン（あさひあったかまちづくり計画）の実施に協力し、「あさひあったかきち」の運営委員として地域活動に取り組みます。

これまで築いてきた地域のネットワークを活かしながら、放課後等デイサービスのスタートに向けて新たな一步を踏み出すこととなります。ご協力くださいますようお願いいたします。

*定款の変更（事業内容）を行ないましたので、昨年度までと、事業の名称が変わっているところがあります。

未来に向かってチャレンジ！～障害児の自立に向けて～

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

今年度も、大阪ガスグループの助成をいただいて、障害児の自立に向けた活動に取り組んでいます。猛暑の中、「自立生活プログラム・子ども版」の〈おしゃれ〉プログラムを2日間にわたって行ないました。

「障害をもっている子どもたち、浴衣、着たこと、あるかなあ～」「浴衣を着て、夏まつりや夜店に行ったことあるかなあ～」。着崩れるから…、汚すから…、親が大変だから…。ならば、普段できない体験をしてもらおうと、この夏は“浴衣”にチャレンジしました。昨年6月の「自立生活プログラム・子ども版」実践報告会&学習会にたくさんのご参加をいただいた旭区老人クラブ連合会にご協力をお願いし、浴衣を着つけていただきました。また、2010年度の〈おしゃれ〉プログラムのファッションショーでご協力をいただいた美容師さんに、子どもたちが選んだ写真をもとに、ヘアアレンジをしていただきました。

ゆかたを着よう!!

～ゆかたを着て、夜店に行こう！～

① ゆかたについて勉強して、どんな髪型がいいか考えました

日 時：2013年8月2日（金）14：00～16：00

会 場：あさひあったかきち

参加者：障害をもつ子ども5名、老人クラブ連合会9名、

ほうぶスタッフ3名



参加者同士の交流の時間を取りながら、「ゆかた」「おび」「げた」と勉強したり、「どんな髪型がいいのかな？」と考えました。女の子たちの髪型を選ぶのの早いこと！着付けもしてもらい、次回に備えました。



子ども
たちが
選んだ
髪型



② 髪をセットして、ゆかたを着て、夜店に行きました

日 時：2013年8月6日（火）14：30～16：30

会 場：あさひあったかきち

参加者：障害をもつ子ども5名、老人クラブ連合会9名、
学生ボランティア10名、ほうぶスタッフ3名

大阪で最も歴史のある商店街の一つ、千林商店街で開かれる夜店に、浴衣を着て出かけました。夕方でも暑い！人混みを下駄で歩きにくい！でも、おしゃれしたから大張り切りです。ボランティアのお姉さんも、ゆかた姿で一緒に楽しんでくれました。ボランティアのお兄さん達も一緒に夜店で遊んでくれました。ヨーヨー釣りや金魚すくい、美味しいものも食べることができたかな～。



障害をもつ子どもの大学進学 パート2

日時：2013年7月18日（木）14:00~15:30

会場：市民交流センターあさひ西 302

参加者：障害をもつ高校生2名とその保護者3名、

障害をもつ大学生の保護者4名、支援者・関係者10名



前号で「障害をもつ子どもの大学進学」の記事を掲載したところ、反響があり、急ぎよ、高校生や保護者や支援者が集まり、座談会を開催して情報交換を行いました。短い時間でしたが、障害をもつ大学生の保護者から子どもの大学進学にかかわる体験と大学生活の様子が語られ、その後、質疑応答や意見交換が行なわれました。主な内容をご紹介します。

◎科目等履修と聴講について

- ・知的障害のある子どもの入学は、単位が取れない、卒業できない、大学の体制が整っていない等の理由で、かなり困難だが、科目等履修生や聴講生として受け入れている大学がある。
- ・大学によっては、科目等履修のみ、聴講のみ、あるいは、両方の制度が整えられているなどさまざまである。
- ・科目等履修は原則的に単位認定があり、教員が評価を行うために試験やレポートが課せられる。聴講は授業を聴くことに重きが置かれるので、単位認定や評価は関係のない場合が多い。
- ・単位が認定されると、次学期からはその科目を履修できなくなることがある。同一科目の履修を続けたい場合には、単位認定を不可にしてもらう場合もある。科目等履修であっても、保護者と本人の希望があれば、試験やレポートを辞退して単位が認定されない場合もある。

◎大学訪問から入学まで

- ・いろんな大学のオープンキャンパスに参加し、体験授業を受けるなどして、大学の様子を知る。受験についての相談だけでなく、科目等履修生や聴講生の選考方法についても尋ねる。
- ・オープンキャンパスの個別相談で、入学の意向を伝えると対応が悪いが、科目等履修や聴講について尋ねると、快く説明してくれる場合が多いように感じた。
- ・在学生の雰囲気も大学によってさまざま。ピリピリしている雰囲気の大学や、のんびりした雰囲気の大学など、子どもにあった環境を考えながら見学する。
- ・大学との面談や受験の相談に、高校の教員や教頭などが同行する、あるいは、高校から大学に直接話をしてもらうと、大学の対応は丁寧だが、親子だけで相談に行くと対応が悪く傷つけられることもあった。

◎入学後、大切なポイント

- ・コミュニケーションをとることが難しい子は、介助員がついて他学生との橋渡しを。
- ・通学や学内での介助者探しが大変。福祉サービスと大学教育が連携できると良いが…。
- ・学生ボランティア(有償・無償、やりかたはいろいろ)を募集するなど、キーマンを見つけて働きかけることで関係を広げていく。大学によっては、学内の仕組みとして有償ボランティアや障害学生支援の体制が整備されているところもある。
- ・授業を受けているだけでは、他の学生と関係をつくるのが非常に難しい。教員の協力があれば、ゼミやサークルなどの居場所(拠点)をつくって、学生同士の関係が広がる可能性もある。イベントを催すなどして、互いに出会う場や関わる場をつくっていく方法もある。

障害をもつ学生とのかかわりを通して—大学教員の立場から—

かつて、障害児とかかわる熟練の支援者から、自発的にサポートする健常の子どもに対して「ありがとう」という言葉を意図的に投げかけないようにしている、ということを知った。支援する者／支援される者という関係ではなく、ともに学び合う関係を媒介する者のスタンスとして示唆に富む。自身の立ち位置を探し続ける試行錯誤から、2つの事例を紹介したい。

●視覚障害をもつ学生とのかかわりを通して

盲学校高等部で学んできた Aさんは、東北や関東の複数の大学で、視覚障害学生の受け入れ体制が整っていないことを理由に入学を断られ、関西の大学で学ぶことになった。

大学では情報保障の一環として配付資料等の点訳が行われている。点訳担当職員の言動に不快感や恐怖感を覚えて自ずと足が遠のいてしまう、という相談が Aさんからあった。そこで、Aさんが管理職に思いを直接伝える機会を設定した。Aさんが事実関係を管理職に淡々と伝えたところ、その場で担当者の交代が告げられた。Aさんの希望で同席することになった私は、憤りをあらわにするばかりで何の役にも立てなかった。そればかりか、「今回の件で先生の立場が悪くなりませんか」と、Aさんから心配される始末だった。

東日本大震災を経て、Aさんは出身地である東北地方の公務員として、被災地の復興に関わりたいという意志を固めた。しかし、地元の公務員採用試験では点字受験の前例がなかった。採用試験の1年前、被災地の自治体に点字受験実施の要望を自ら伝えた Aさんの行動は、当事者団体、盲学校、議員、メディアを巻き込む運動へと発展した。それらに背中を押されて、「障害者の権利条約に依れば合理的配慮に欠ける差別行為に相当する」という要望書を握りしめてアポイントもとらずに訪庁した。その10日後、点字受験実施の報せが届いた。Aさんは大きなプレッシャーをはねのけて採用試験に合格し、今頃は楽しみながら上司を教育していることと思われる。私がそうだったように。

●知的障害をもつ学生とのかかわりを通して

科目履修生の Bさんがゼミに参加するにあたって、参加の可否についてゼミ生に判断を委ねることを試みた。当時のゼミ生一人ひとりの意見を聴いたうえで、ゼミ生の総意として Bさんを迎え入れることになった。その後、ゼミ生に次のような変容がみられた。

1つ目に、ゼミを欠席しがちな学生が出席するようになった。Bさんとその学生の自宅が近かったため、最寄り駅で待ち合わせをして、Bさんが毎回のゼミにその学生の手を引っ張って連れてきてくれるようになった。

2つ目に、感情表現が乏しく、他者との会話もままならなかった学生に、自然な笑顔やふるまいがみられるようになった。社会福祉実習や就職活動で対人関係上の壁に直面する都度、笑顔の重要性を伝えてきたが、Bさんは学内で友人知人に会うと笑顔で駆け寄り、相手を笑顔にさせる力をもつ。駆け寄られたその学生は、当初は戸惑いながらも、やがては自分から Bさんを笑わせようとするようになった。ありのままに存在する Bさんとのかかわりを通して、その学生もまた、ありのままにいることの居心地のよさを感じたに違いない。

3つ目に、障害をもつ人への社会の側の対応に、ゼミ生が違和感や憤りをもつようになったことである。Bさんと一緒に通学していると、バスや電車などの公共交通機関の対応を目の当たりにする。Bさんの思いを代弁するかのよう、複数の女子学生が憤る姿に触れ、障害をもつ人とともに学び合う経験こそが、社会を変えていく糧になることを確信した。

旭区情報

第5回子育てわいわい広場 in Asahi

2013年7月4日(木)10:00~12:00

大阪市立旭区民センター 大ホール・小ホール

主催：旭区子育てサロン連絡会、旭区保健福祉センター、旭区社会福祉協議会

協力団体：旭区民生委員協議会、旭区食生活改善推進員協議会「しょうぶの会」、あさひ子育てネットワーク「きしゃぼっぽ」、NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ、旭区子ども子育てプラザ、NPO 法人フェリスモンテはなしょうぶ、NPO 法人子どもセンターあさひ、大阪第85ボーイスカウト、城北市民学習センター、旭区歯科医師会、旭子育て支援センター、城北環境事業センター、旭図書館、旭消防署、旭警察署



旭区で子育てに関わるさまざまな団体や施設が協力をし、2009年から始まった「子育てわいわい広場」。子育て中の方々の交流や情報交換、子育て情報の発信の場にするを目的として、主任児童委員さんを中心として開催されてきました。遊びのコーナー、キッズシアターや絵本の読み聞かせ、バルーンアートに子育て相談コーナー。みんなで一緒に手遊びや体操。ミニ消防車・青パト・白バイに、子どもに大人気の「しょうぶちゃん」もやってきました。今年は、200組を超える親子が来場してくださり、500名を超える参加者で賑わいました。

あさひあったかまちづくり

あったかきちでは、8月より、毎月定例イベントを開催します

第1回 あったか座

◆日時：8月17日(土) 午後1時30分~

◆会場：あさひあったかきち

演目：手品と音楽 参加費：無料(先着50名)
カードマジックとヨーロッパルネサンス音楽(ハープとリュートと笛の調べ)を楽しみましょう!

<お問い合わせ先>

あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会事務局

旭区役所保健福祉課(地域福祉) 電話 06-6957-9857

旭区社会福祉協議会 電話 06-6957-2200

来てや! 寄ってや!



出演者募集!!

演じてみたいという方は、
直接、あったかきちか、
事務局までご連絡ください。

無料です。
予約不要。

障害当事者および家族・関係者のための 「なんでも相談会」

制度のこと、暮らしのこと、日々の生活の中で困ったことはありませんか？ 旭区自立支援協議会では、毎月「なんでも相談会」を開催しています。お気軽にご相談ください。

◆開設日時：毎月第3火曜日 午後2時から午後4時

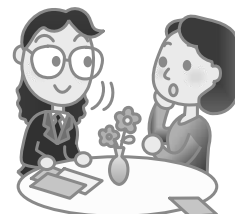
◆場所：旭区役所1階 第7会議室

※ 毎月第3火曜日に上記の場所・時間帯で開催しています。
(都合により、日にちと場所を変更する場合があります)

※今後の予定

8月20日(火)、9月17日(火)、10月15日(火)、11月19日(火)、
12月17日(火)、1月21日(火)、2月18日(火)、3月18日(火)

＜お問い合わせ、連絡先：旭区役所地域福祉 06-6957-9857＞



ほうぶのスタッフの次女Mちゃんが^{そら}天に逝ってしまいました。9年という短い人生でしたが、重い障害をもつ彼女は、精一杯の時間を生き、身体中の精一杯の力を使い果たし臓器が動かなくなるまで、いのちを生き遂げました。通夜でのお父さんの言葉。「娘は地域の中で、保育所、学校、放課後活動、マンションや近隣の方々、本当にたくさんの方々から声をかけていただきながら、可愛がっていただきながら育て、本当に幸せだったと思います。」

猛暑の日々です。皆さん、熱中症には気をつけてください。

